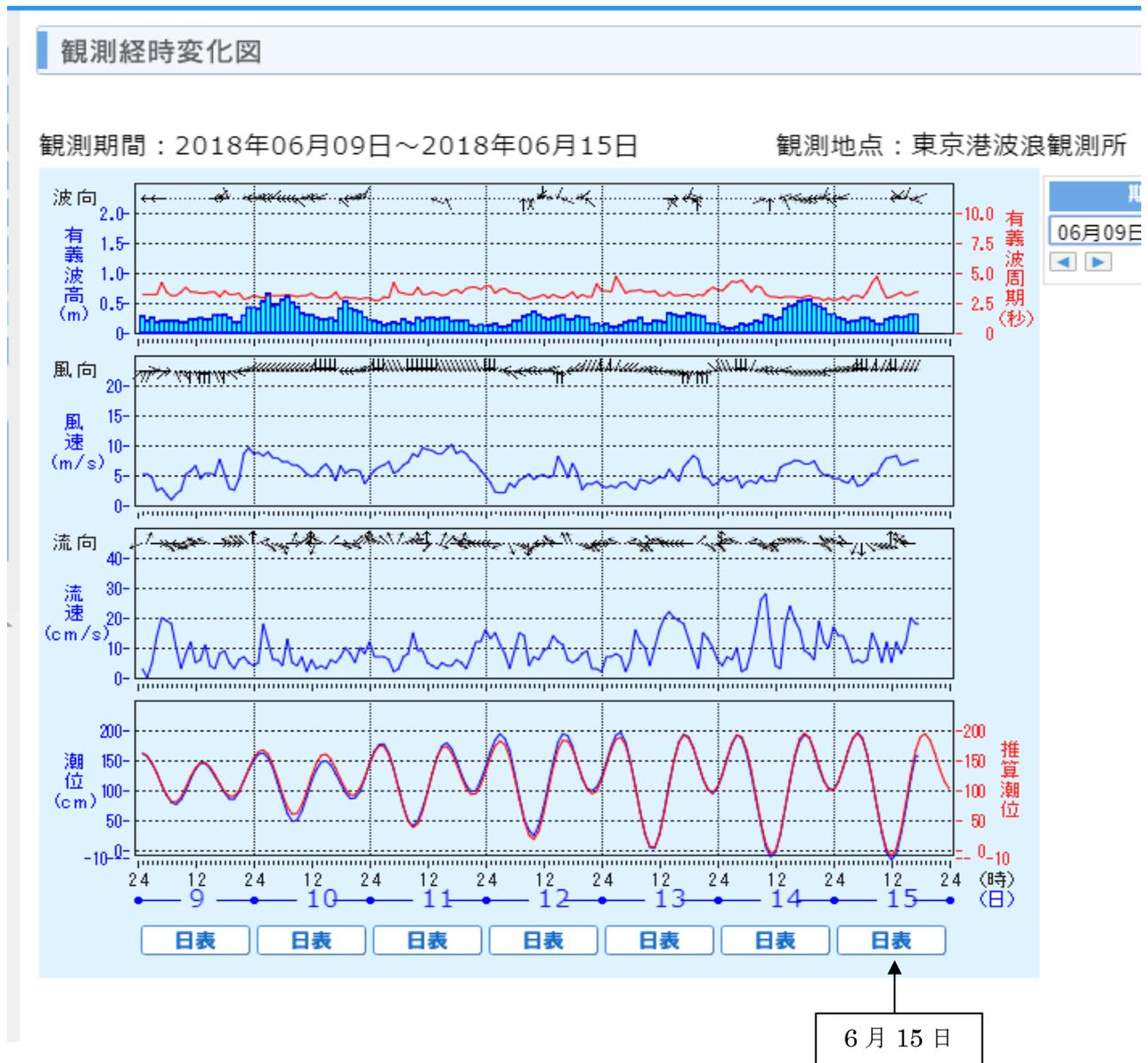


【当日の実測潮位と気象海象の状況】

例年、観察日は気象庁の潮位表を確認して潮がよく引く大潮期にします。今年はずっとよく潮が引く日としてセットしたのですが、あいにくの天気（曇り雨）でした。

潮位実測データ（東京都港湾局）を確認したところ、図-2 に示したとおり概ね推算潮位で見込まれたのと同程度に潮が引いておりました。

（実測データは東京港内で木更津は多少離れておりますが、その傾向は概ね同様でしょう。）



<http://micos-sa.jwa.or.jp/metro/tokyop/topframe.htm>

観測期間：2018年06月09日～2018年06月15日 観測地点：東京港波浪観測所

図-2 実測潮位等の経時変化（東京都港湾局の観測データ）



木更津漁協の潮干狩り場 2018年6月15日10時頃



木更津漁協の潮干狩り場 2018年6月15日12時半頃

【潮干狩り場】

平日の曇り空では、潮干狩り客もまばらです。

波打ち際にアオサ等の海藻類やゴミの打ち上げはなく、干潟の砂泥質はぬかるむことなく歩きやすく、腐敗臭が漂わない状態でした。



☆生物の出現状況

【岸寄り、護岸付近】 護岸の直近では貝殻が混じる砂地でやや黒みがかっておりました。ハゼ類の稚魚を多く見かけたのでタモを入れたらオサガニ類も捕れました。



ステンレス製のザルで砂を篩ったところ、アラムシロガイの他にアサリの稚貝がいました。



【岸から 100m 付近】持ち帰りサイズのアサリは見かけませんでしたが、稚貝は少々いました。丸い巻貝は、キサゴです。



【岸から 200m】天気が悪いこともあり、潮干狩りの人々はこの辺りまででした。さらに沖に行った人々は戻ってきました。本職的な、頑張ろうという人たちもいませんでした。シオフキガイ、マテガイは見かけませんでしたが、キサゴが多く目立ちました。アサリを食べてしまう漁師から嫌われるツメタガイは時折見かけました。



【岸から 300m】 このあたりの少し手前からコアマモの群生がところどころ見かけるようになりました。持ち帰りサイズのアサリはいませんが、稚貝がいることは確認できました。



【岸から 400m】 コアマモが干潟を覆いつくすような感じで繁茂して、アラムシロガイがスイスイと進んでいます。こんな状況で潮干狩りが成り立つのであろうかと心配になるほど、アサリがいりません。稚貝はいるのですが…。キサゴもさほど大きくはありませんが結構いました。



【潮干狩り範囲、岸から 100m~200m】400mまで進んだときにまだ潮が引いていなかったため、どこでアサリが多く取れそうか試すために、2年前捕れた岸から 400mのあたりに戻りましたが、商品サイズのアサリがおらず、さらに岸に向かいました。



小学校の子供たちでしょうか、岸にほど近いところに多少の賑わいもありました。ハマグリもいました。



【岸から 500m】

底質の状況は砂泥質で貝殻片の混入が少ない状態で、酸素が少ない還元状態（砂泥が黒色を呈し、硫化水素臭がする）ではありませんでした。アサリの商品サイズはなく、稚貝が少々でした。コアモの群落地となっており、ところどころにアマモが見え始めました。



【岸から 600m】一面にアマモ藻場が広がります。アマモがない砂地部分は固い手ごたえで、表面をステンレス製のザルで掻いてもさほど「もの」が入りません。アサリの稚貝は少々いました。



【岸から 700m】一面のアマモ、水深が 0.2m 近くあり砂の中が確認できません。



【岸から 780m】

このあたりは、昨年も砂地が干出する干潟の沖側の縁辺部です。貝殻が混じった硬い砂地となり、熊手を使っても生きた貝類がなかなか見つかりません。バカガイにとっても硬すぎる砂地なのではないでしょうか、姿を全く見ませんでした。ここに来るまで、シオフキガイ、マテガイ、バカガイは確認できず、アカニシ、ツメタガイ、イガイ類は見ましたが少々でした。メジメジと呼ばれて干潟上をマット状に覆うホトトギスガイには気が付きませんでした。水深がほどほどあった、コアマモ、アマモに覆われて見えなかったということで気が付かなかったのかもしれませんが。



バカガイの稚貝?

【潮干狩りの成果】今回の成果としては、アサリ（比較的小型）とハマグリが少々でした。2kgには足りない量と見ました。



今回確認した唯一のシオフキガイ



【その他】アサリを味噌汁にして見たところ、だしが効いていて美味しかったです。

以上